

日本をリハビリする 身体拘束ゼロへ挑戦!!

「介護現場から生まれたアイデアをカタチにする!!」

～若き社長の熱い思いと斬新な着眼点による新規事業創造が介護環境を変える～



代表者 杉本 光平 氏

二十代という若き社長と介護現場を知り尽くした理学療法士がタッグを組み、これまで届かなかった現場の声に耳を傾け、斬新な着眼点で「ありそうでなかったものをカタチにする」をコンセプトに商品を開発。その商品により近い将来迎える「2025年問題」による社会保障費急増を抑制しようと取り組む株式会社RKLの代表者 杉本光平 様にお話を伺いました。

若き社長の熱い思い

2015年には、「団塊の世代」と呼ばれる人が前期高齢者（65～74歳）に到達しましたが、その10年後（2025年）には後期高齢者（75歳以上）となり、高齢者人口が約3,500万人に達するとともに、必要な介護職員が約38万人不足すると言います。いわゆる「2025年問題」（超少子高齢社会）では、人口構造が変化しても医療保障制度や介護保険制度等の社会保障制度を持続可能なものにするため、一人でも多くの方の健康寿命を延ばすことが大切です。当社では、こういった状況を鑑みて、現場の声に耳を傾けながら、超少子高齢社会に必要な商品開発を行うとともに、将来的には訪問介護事業や健康寿命延伸事業にも斬新な着眼点で挑戦していくつもりです。

起業するにあたって

京都にある医療機器の卸問屋会社で4年間ルートセールスをしていましたが、現場からの要望を耳にする機会がたくさんありました。新商品等を現場のスタッフの方々にPRさせていただくと「この商品はここがこうだから使いにくい」、「なんのためにこの部品がいるの?」といった現場で働く目線ならではのご指摘をいただくことが多くありました。おそらくメーカーに直接意見をよりも日々訪問させていただいたことにより、私たちの方がご意見ご要望等を言いやすかったのではないかと思います。こういった経験から、介護現場での声をカタチにするビジネスができればという思いが起業の最初のキッカケとなったわけです。そして、ルートセールス先の一施設にいた姫野氏（現相談役）との出会いが起業のターニングポイントとなりました。彼は愚痴や不満だけでなく、商品化につながるようなアイデアをたくさん持っていることを知りました。一方、私の業務は消耗品の納品に一日中追われる日々が続いたため、仕事に対する将来的なやりがいを見い出すことができませんでした。そのことを姫野氏に相談したところ、「あん摩・マッサージ指圧師」の

資格取得と開業を勧められ、夜間のおんま・マッサージ学校への通学を始めるとともに退職を決意し、起業の道を選ぶことになりました。

はじめての自社製品

認知症患者による夜間の徘徊問題について、夜間に徘徊している方を部屋に入れることは大変な労力が必要となるので、逆に「徘徊」と同時に歩行訓練をしてもらうという着眼点に立ち、転倒リスクを軽減するような商品を開発したことが契機となり、はじめての自社製品が誕生しました。汎用型の歩行器を高齢者の方がよく使われていますが、スロープの坂道などで膝から崩れ落ちて、年間何軒かは転倒事故が発生しています。この歩行器に汎用型で装着できるサポート器具として開発したものが、当社の歩行器補助シート「アルケル」です。装着方法はバックル4点留めとなっており、後面を2点マジックテープで留めるようになっています。この後面のマジックテープにより後方への転倒を防止します。

もうひとつの大きな特徴はシートそのものの生地です。



歩行器補助シート「アルケル」

様々な形で利用者をサポート



歩行器補助シート「アルケル」の装着例

この部材は某ドーム球場の屋根に使用されているものと同じもので水は通さないが空気は通すというスグレモノとなっております。介護利用者の嘔吐や尿汚染に対しても消毒など後処理が大変ですが、当社の製品なら生地も縫製も大変丈夫なのでそのまま洗濯機に入れても全く問題がありません。生地だけでなく縫製の面でも、実は、福岡県大川市の家具職人に縫製マシンでひとつひとつ手作業で縫製していただいているので非常に頑丈なものとなっております。

身体拘束ゼロへの挑戦!!

転倒リスクを排除することにより、身体拘束ゼロへ挑戦します。施設での特に夜間スタッフの当直員は非常に少なく、夜間の徘徊者に部屋に入ってもらうことは非常に困難であ

歩行器補助シート「アルケル」の販促パンフ

るため、やむを得ず状況によっては、例外的に身体拘束することが黙認されているのが現状です。この時、身体拘束3原則というものがあり、①身体拘束をしなければ危険につながってしまう場合、②身体拘束に取って代わる手段がない場合、③自分の体を傷つけてしまうなど切迫した事情がある場合の3つがあります。当社では、②の場合について、警鐘を鳴らすため代替手段として「歩行器補助シート」を提案しています。もし、昼間から「見守り程度」で歩行させてあげることができれば、昼間歩き疲れて夜にはぐっすり眠っていただけのではないかと考えています。

日本をリハビリする

超高齢化社会へ突入するにあたり、社会保障費がますます膨らんで国家財政負担の大きな重しとなっている現状から、少しでもこの社会保障費を減らすために当社で何かできないかということを実際に考えるようになりました。利用者負担を少なくし、介護する施設や訪問員の負担軽減に貢献できるような製品を開発することはもちろんのこと、この社会保障費に苦しんでいる「日本をリハビリ」するという大きな命題を掲げて事業に取り組んでいます。

最後に

今後、高齢者数が人口全体の比率に対して急激に増加していく中で、多様化していくことが予想されるニーズ、シーズにしっかりと答えていかなければなりません。そのためには現場サービスの質の向上は必須であり、不足する介護職員の業務負担軽減に向けた様々な考慮が必要です。

当社においても、これから迎える人口減少の危機を乗り越えられるよう日々商品の開発やサービスの提供、健康寿命延伸に向けた講演等を通じて「想像即実行、そして創造」の精神を大切に皆様の信頼と満足を得てまいりたいと存じます。



Company Data

株式会社RKL

代表者/杉本 光平
所在地/〒610-0332 京田辺市興戸地藏谷1番地
同志社大学京田辺キャンパス業成館D-egg311号室
設立/平成28年
資本金/10万円
従業員/1人
事業内容/福祉用具開発・販売、訪問介護事業、健康寿命延伸事業

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497 E-mail:kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp